



近世編専門部会 調査報告会 「藩政日記の世界」を開催しました

丹波篠山市は令和元年度に丹波篠山市として新たな歴史を踏み出したことを契機に、7つの専門部会を設置して市史編さん事業に取り組んでいます。近世編専門部会では、令和5年度から4回の古文書調査合宿を行い、専門部会委員とともに、大学生、大学院生、市民ボランティアの協力を得ながら「篠山藩青山家文書」の調査研究を進めています。

昨年12月21日には、中央図書館で調査報告会「藩政日記の世界—大学生・院生による調査報告」を開催しました。

当日はあいにくの雨にもかかわらず、約50人もの方に参加いただきました。

各報告25分という短時間の発表でしたが、4組の報告者から篠山藩政の仕組みや江戸時代後期の藩内の様子、緊張感あふれる幕末の篠山藩士たちの姿などを報告していただきました。

次の報告をしていただきました

報告① 「続・寛延三年日記を読む」
▶同志社大学町触研究会（小野開平さん、福島匠人さん、小笠原巧士さん、松岡智也さん、真砂蒼海さん）

報告③ 「『禁門の変』に際する篠山藩国許の出兵準備～元治元年の御右筆日記からわかること～」
▶宇澤康平さん（関西大学大学院）

報告② 「篠山藩における地域支配と大年番制～文政期を中心に～」
▶黒柳孝介さん（同志社大学）

報告④ 「歴史資料整理作業のエスノメソドロジー『丹波篠山市史編さん事業』を例として」
▶成田まおさん（神戸大学大学院）

参加者からの声（一部）

充実した内容で、興味深く聞いた。藩政日記が貴重な古文書であることや、これらを将来にわたって読み解いていくことの意義も感じた。さらなる歴史的遺産の集積としての市史編さんと学問的成果を期待している。

日記の原文を見るとミミズがはったような文字で、何が書いてあるのか分からないが、活字にさせていただき報告を聞くと、何となく分かって大変よかった。

市史編さん各部会の活動報告（令和7年4～12月）

活動日	活動内容	活動日	活動内容	
4月 6日	近世部会協議	9月 28日	近現代部会協議・史料調査	
5月	4～5日 中世部会協議・史料調査	10月 16日	近世部会協議	
	7日 近世部会協議	10月 31日～11月2日	第9回中世部会・史料調査（舞鶴市）	
6月	23日 第6回文化財部会	11月	2日 自然環境部会オンライン会議	
	5日 近世部会協議		7日 第13回考古部会	
	20日 第11回考古部会		15～16日 第5回古代部会巡検	
7月	22日 近世部会協議・史料調査	28日	近世部会藩政史料保存取扱等協議	
	4日 第7回文化財部会	4日	近世部会協議	
	5日 第4回古代部会巡検	12月 13～14日	第9回古代部会	
	6日 古代部会協議・史料調査	21日	第9回近世部会／近世部会報告会「藩政日記の世界—大学生・院生による調査報告」	
8月	16日 近世部会史料調査（以降、継続）龍蔵寺文書	4～12月	自然環境編原稿執筆・取りまとめ／地域編多紀部会アンケート取りまとめ・原稿執筆・方言事典作成／地域編城東部会原稿執筆	
	1日 第8回文化財部会		通 年	地域資料整理サポーター活動（毎週水・金曜日）
	6日 近世部会協議			
	6～8日 近世部会協議・合宿調査			
9月	22日 近世部会史料調査（以降、継続）青山記念文庫／第12回考古部会			
	29日 近現代部会史料調査			
	9日 近世部会協議			
19日 第9回文化財部会				

丹波篠山市史編さんだより

第4号

令和8年2月20日発行

【発行】丹波篠山市教育委員会市史編さん課 TEL 079-593-1070
〒669-2734 兵庫県丹波篠山市宮田240 西紀支所2階

丹波篠山市史編さんだより

第4号
令和8年2月



丹波篠山
いまむかし

（個人蔵）

青山神社祭礼の少年甲冑隊

—昭和9年4月15日—

篠山城跡に鎮座する青山神社は、旧藩主青山家の遠祖、青山忠俊と青山家中興の藩主と言われた青山忠裕を祭神とし、青山家歴代の御霊を祭る神社です。

明治13年、篠山藩の旧藩士たちによつて藩主であった青山家をたたえるための新たな神社を創設する機運が高まり、明治15年5月に青山神社の鎮座式と大祭が行われましたが、当初、祭神は忠俊のみでした。その後、昭和5年、永年幕府の老中を勤め、篠山藩で善政を行った忠裕が合祀されました。

忠俊の命日である4月15日を祭日に定め、毎年4月14日・15日の両日に例祭が行われていましたが、現在は4月の第1土曜日に行われ、本宮では春日神社から渡御の行列が行われます。「篠山町七十五年史」には、「かつては武装せる鳳鳴義塾生徒の前駆に続いて、昔ながらの甲冑武者、小学生の弓箭隊が多数に供奉し、太鼓とほら貝



▶令和7年 青山神社祭礼の様子（篠山城下まちづくり協議会提供）

の合図に肅々として町内を練り歩いた昔を偲ぶ祭礼である」と紹介されています。

昭和9年に撮影された上の写真には「少年甲冑隊」とタイトルがつけられており、町ごとに並ぶ幟の下、60人以上の子どもたちが横2列に並び、緊張した面持ちでこちらを眺めています。前方の子どもたちは甲冑隊ですが、後方には弓を持ち、かすりの着物にはかまを着けた弓箭隊の姿が見えます。

左の写真は昨年のもので、現在は30人ほどの子どもたちが行列に参加し、祭礼は丹波篠山の春の風物詩となっています。

地域資料整理サポーター

報告会を開催します

神戸大学大学院人文科学研究科特命助教 松本充弘さん

サポーター活動の経緯

地域資料整理サポーターは平成25年6月8日、篠山市(当時)と神戸大学大学院人文科学研究科による連携事業の一環として、13人の市民ボランティアの方々により結成されました。当初は中央図書館に活動の拠点を置き、図書館に収蔵されている未整理状態の地域資料を活用できるように、目録の作成を進めるということに主たる目的がありました。その目的のもと整理作業が行われた資料に、郷土史家奥田楽々斎氏ゆかりの「楽翁文書」、旧丹南町の遺産ともいえる「丹南町史編さん史料」などがあります。折々に活動成果の発信にも取り組み、令和元年度末には丹南町史編さん史料の翻刻文(くずし字を読み取り、原稿用紙に楷書で書き写したものの)のデジタル化・製本化を行ったほか、令和2年2月には中央図書館内での資料展示「歴史の宝庫 丹波篠山」地域の歴史を未来に伝える」を開催するなどしています。



▲丹南町史編さん担当者、サポーターの皆さんと

市制20周年を記念して市名が丹波篠山市に変更されてからは、サポーターの皆さんが培ったノウハウを市史編さんの取り組みにも生かしていただいています。大庄屋文書をはじめとする膨大な民間所在の歴史資料をクリーニングし、一点一点に番号をつけて目録化するのはとても根気が必要な作業ですが、サポーターの皆さんによって作成された目録は各専門部会にも提供され、市史への反映が期待されています。このような目録作成のほか、丹南町史編さん史料の解読、あるいは旧篠山藩主青山家に伝わる藩政日記の筆耕やパソコン入力などに取り組んでくださる方もいらっしゃいます。

報告会の目的

丹波篠山地域は古くから郷土史研究が盛んだった地域ということもあり、地域の歴史や文化に深い造詣を持ち、主体的な調査に基づく知見をさまざまな形で発信している市民の方が多いと思います。市史編さん事業には年限がありますが、歴史文化を継承していく営みには終わりはありません。丹波篠山市史を編む過程に、大学などの研究者だけではなく、多くの市民の皆さんに積極的な形で関わっていただくことができれば、市史はおのずと多くの人が「読んでみたい」と思えるものになり、歴史文化を次世代へ伝えていく原動力となることでしょう。



▲サポーター活動風景

地域資料整理サポーター報告会

「サポーターが語る地域資料の魅力」

とき 3月21日(土) 13:30~15:30
ところ 中央図書館 視聴覚ホール
報告者 地域資料整理サポーター
対談者 丹波篠山市史編さん近世編専門部会委員

参加費無料 ぜひお越しください

地域資料整理サポーター活動は、市民と行政、そして大学が相互に連携して進めてきた取り組みでもあります。異なるバックグラウンドを持つ人々が地域の歴史資料をめぐる交流や学びを継続してきたことがどのような相乗効果を生み出し、今後どのような課題が残されているのか。このたびの報告会はサポーター有志の方々による個別報告と、サポーターの皆さんと近世編専門部会委員による対談の二部構成をとって、丹波篠山地域の歴史文化を未来へ伝えていくための手がかりを考えます。多くの方のご参加をお待ちしております。

収集資料紹介

鳳鳴高校ゆかりの大石家

神戸大学大学院人文科学研究科特命助教 松本充弘さん

今年には篠山鳳鳴高等学校が設立されて150年を迎える節目の年。江戸時代の藩校振徳堂に淵源を持つ鳳鳴高校は、地域に冠たる教育機関として、多くの優れた人材を世に送り出してきました。今回は、市史編さんの過程で調査の機会を得た鳳鳴高校ゆかりの大石家について紹介します。

大石家は宝永2(1705)年、初代の貞次が足軽として仕官して以来の青山家家臣です。6代目の大石貞質は、勿斎を号とし、篠山城下の西新町に居を構えていました。幼い頃には、大塩平八郎との交流が知られる篠山藩儒の渡邊非措に学び、安政2(1855)年に初めて藩主への御目見を許されます。元治元(1864)年には藩校振徳堂の教導方添役となり、「文学の志厚く、言行慎み克く候」と藩主青山忠敏のお褒めにあずかっています。幕末の動乱期には軍事的な業務に携わることもありましたが、貞質は篠山藩における文事の担い手として着実に地歩を固めていました。

維新後、貞質は鳳鳴高校の前身にあたる公立篠山中学校の創設に関与し、明治12年には同校長兼訓導に就

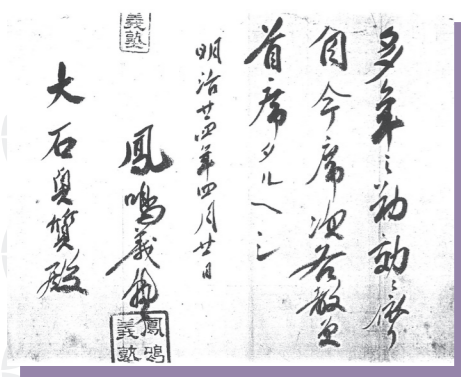


▲大石貞質肖像 (田中俊彦さん寄贈)

任しています。明治15年に一度退職しますが、私立鳳鳴義塾と改称した明治23年に復帰し、2代目塾長安藤直紀のもと明治29年まで務めています。貞質の門人や影響を受けた人々は多く、一周忌にあたる明治43年11月に刊行された『勿斎遺稿』には本郷房太郎が序文を寄せています。

篠山盆地を一望できる王地山公園には、明治43年7月に建てられた顕彰碑が今でも残されています。石碑の表面には貞質の事績が刻まれ、裏面には7人の賛助員と25人の発起人が名を連ねています。百三十七銀行頭取や多紀郡参事会を歴任した樋口達兵衛も、その一人です。町人身分の出身であった達兵衛は学問を志して鳳鳴義塾へ入塾し、地域社会の政治経済に重きをなしました。そのような人材

の育成に携わったことも、貞質が残した功績の一つと言えるでしょう。令和4年度に、2代目の達兵衛さんから伝来の樋口家文書を市史に寄贈いただき、その中には米田サンノゼへ移住した貞質の長男徳太郎から達兵衛に宛てた手紙が含まれていました。徳太郎は異国の地で花園業を営み、日系一世として成功を収めました。手紙では「全力を徳育に尽」した父へのび、建碑費用を米田から達兵衛のもとへ送金する旨が記されています。渡米した貞質の子どもたちについては、縁者である田中俊彦さんが「大石三兄弟物語」にまとめ、平成30年に出版。この本が中央図書館に配架されていた縁で、令和5年に田中さんのお話を直接伺うことができ、貞質の肖像写真や辞令、「大石家三代事歴一端」の写など、貴重な資料を市史編さんのためにご提供いただきました。大石家にまつわる史料との出会いは、これらにとどまりません。現在、近世編専門部会を中心に進めている鳳鳴高校の青山記念文庫の調査では、貞質の父、大石貞吉が記名した典籍を数点発見しました。



▲鳳鳴義塾より大石貞質への辞令 (田中俊彦さん寄贈)

『地方凡例録』巻十一の写本には、貞吉が次のような奥書を記しています。

明治元年の春、京都の動乱で旧幕府の役人が逃げ去った後には、三条の本屋に村落行政のための書籍が数多く売りに出されていた。私の息子貞質がそれを見つけて、篠山藩のために役立つものもあるだろうと考え、買い上げて篠山の役所に取められた書籍のうち、未見であった『地方凡例録』巻十一に興味を持ち、仕事の合間に書写を重ねてここに完成した(明治3年記)。

江戸時代の藩校から近代の学校へと転身が図られた時代、地域社会の教育に貢献した大石貞質の歩みは、父貞吉から続く著述活動に支えられています。それは、丹波篠山地域における文事の系譜と言ってもよいものだったと思います。